

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成22年(2010)12月10日
No. 36
発行 高津啓洋

地球の緑を守る会・名古屋

11月20・21日両日、名古屋市天



白区野並の山本力雄さんの事務所兼自宅において「地球の緑を守る会・名古屋」の開所式が行われました。

が13口ありました。

《開所式》
「冬桜友の会」名誉会長・藤野弘二さん(88歳)の挨拶の抜粋

「私は冬桜の苗木を20年にわたって様々な所に植える活動を続けてきました。日本の教育の荒廃、とりわけ学校でのいじめで自殺する子供たちが絶えないことに心を痛め、かつての日本人のよき文化と道徳を忘れないで欲しいとの願いを込めて冬桜を植えてきました。冬桜は年2回花を咲かせます。名古屋市の全小・中学校にこの桜を植えました。私は名古屋の教育は全国一悪いのではないかと考えています。この歳になってもいろいろな部署に呼びかけたり苦言を呈したりしているところです。皆さんの会のご発展をお祝いさせていただきます。」

地球の緑を守る会、高津啓洋代表理事の挨拶の抜粋

「社会の深刻な問題にたいして、ああすればよいこうすればよいの議論をするのは容易なことです。しかし藤野先生によ



うに実行される方は極めて稀で大変貴重なことだと思います。

私どもも東京に環境NPO『地球の緑を守る会』を立ち上げて8年目になりますが、この度全国に先駆けて本日この中部地区名古屋に念願の拠点を発足されましたことを心からお喜び申し上げます。

環境問題で大切なことは、地球全体のことを常に心配しながら、その実践は足元から今すぐ始めるということに尽きると思います。ここを拠点として名古屋市における植樹活動がさらに発展することを祈願いたします」

《記念植樹》

式典のあと事務所の前庭に13本の常緑広葉樹(名古屋地方の土地

本来の木)を参加者の皆さんで植えました。樹種はタブノキ、アラカシ、シラカシ、ヤブニッケイ、シロダモ、ヤブツバキ、トベラ、シャリンバイ、マサキ、ヒサカキの10種です。

《ポット苗づくり講習会》

2日目の午後2時、最寄の鎮守の森「八剣社」に集合し、ドングリ拾いから始めました。アラカシ、コジイ、クスノキ、クロガネモチ、ヤブツバキ、サカキ、ヒサカキ、ネズミモチの種を採取しました。事務所に移動し、前庭で苗床のつくり方、種の蒔き方、マルチングの仕方、ポリポットへの移植の方法など一連のポット苗生産の工程を高津代表理事が実演しました。参加者は熱心にメモをとりながら学んでいました。

その後、部屋に入りお茶やコーヒーを飲みながら質疑応答の時間をもちました。

午後5時に閉会しました。(名古屋)

2011年カレンダー



☆ニームの森づくりを推進しています。

今年も、ボランティア隊をパラグアイ国に植林による復興を願って派遣することを予定しています。

☆カレンダーをご活用ください。パンタナールを彩る花々とニームの森づくりが分かります。一部200円にて配布しています。